

寄附金を活かした学内ファンド 「くすのき・125」の設計による 独創的な学問が育まれる環境の創出

京都大学 総合研究推進本部 くすのき・125チーム

鮎川 慧, 園部 太郎, 白井 哲哉, 豊田 裕美, 藤田 弥世

大川 知子, 関 二郎, 上芝 茂光, 武田 菜月

KYOTO UNIVERSITY

京都大学



京都大学創立125周年記念ファンド くすのき・125

京都大学の125周年記念事業の研究力強化施策の一環で立ち上げ

- 2020-22年の期間限定で実施した学内ファンド
- 研究者がいま本当に必要としている支援、いま京都大学が整えるべき研究環境のあり方を形に
- 学内関連組織と密に連携し、補助金ではできない研究推進を実現させた好事例
- 学内研究者からの大きな反響、再開希望の声
- URAが主体となり企画・運営・改善



京都大学創立125周年記念ファンド くすのき・125

URAによって成功した5つのポイント

- ✓ 学内ファンドの運営に長けていた
- ✓ 研究者の状況をよく理解している
- ✓ 日ごろから社会や大学の抱える課題に意識的
- ✓ 学内の組織ルールを理解している
- ✓ 事務の人たちとうまく連携できた



研究開発評価の方法に則った企画・運営・改善

- ① 学術動向と研究環境を調査し戦略企画書作成
 - ② 新規ファンドの方針と詳細の策定
 - ③ 公募実施
 - ④ URAと事務職員で毎年自己点検報告書作成
 - ⑤ 次年度の公募運営の改善へ反映
-



くすのき・125のコンセプト

「創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献する」という基本理念に立ち返り、

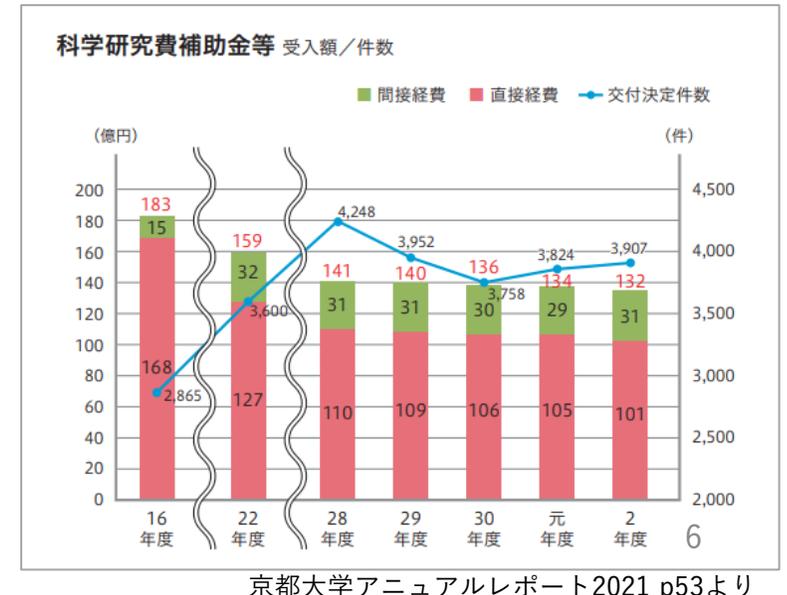
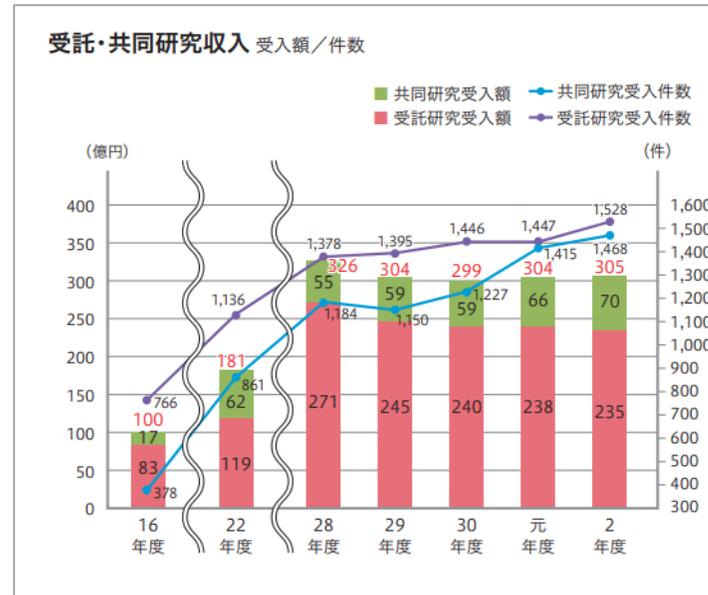
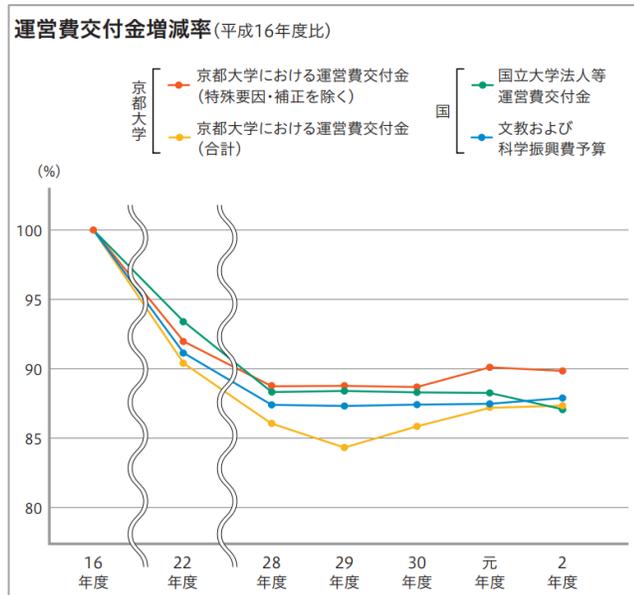
既存の価値観にとらわれない自由な発想で、次の125年に向けて「調和した地球社会のビジョン」を自ら描き、その実現に向けて独創的な研究に挑戦する/挑戦している志の高い次世代研究者に、

自由度の高い資金と対話・研鑽の場を提供する

背景その1 ～大学を取りまく環境の変化～

2001年以降の日本の大学や研究を取り巻く環境の大きな変化

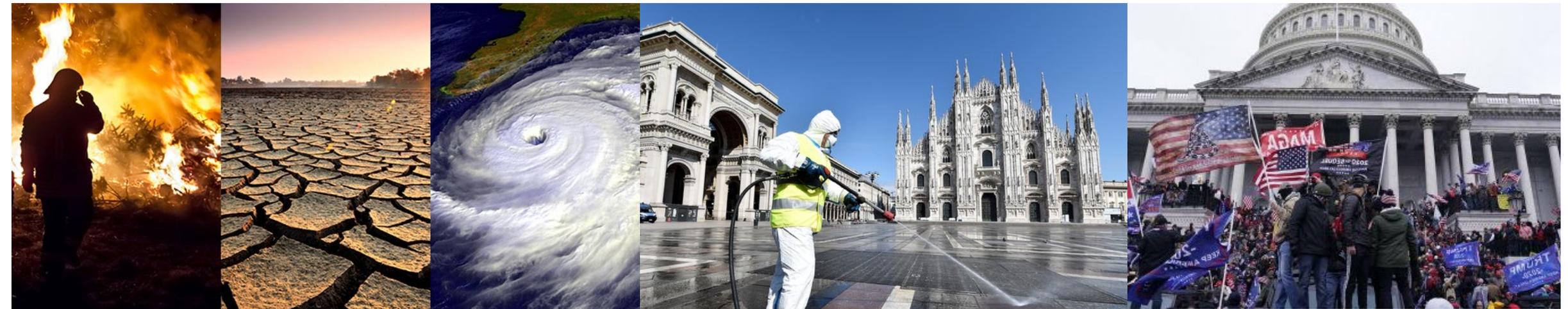
- ✓ 安定的な研究費の減少
- ✓ 研究者が研究に専念できる時間の顕著な減少
- ✓ 短期的な研究成果への要求
- ✓ 若手研究者の減少



背景その2 ～社会の変化～

社会での既存のパラダイムの行き詰まり

- ✓地球環境の不可逆な変化
- ✓感染症の世界的流行
- ✓さまざまな価値観のゆらぎ



KYOTO UNIVERSITY

<https://climate.nasa.gov/effects/>

<https://www.businessinsider.com/italy-lombardy-region-unprepared-coronavirus-cases-january-2020-4>

<https://edition.cnn.com/2022/06/06/politics/january-6-public-hearings-explainer/index.html>

このような状況の今だからこそ…

- 研究者は自ら社会の長期的なビジョンを描き、
実現に向けてじっくりと腰を据えて学問の本質に迫る研究を行ってほしい
- 大学はそれらを可能にする研究環境を提供したい
- 昨今の大学の閉塞的な研究環境に一石を投じたい

くすのき・125の3つの特徴

【審査】 次世代研究者が描く 125年後の地球社会のビジョン を評価

【資金】 研究に集中できる環境づくりをサポート

【成果】 採択し支援する研究（者）を社会に発信

くすのき・125の特徴 ①【審査】

次世代研究者が描く125年後の地球社会のビジョンを評価

- 総長・理事・部局長らが**実績を問わず審査**
- 書面審査時の**審査員の無意識のバイアスを軽減させる審査体制・審査手法を段階的に構築**
 - ・ 公募3年間を通じて、申請者の職位の割合や平均年齢には顕著な変化なし
 - ・ 書面審査通過および最終採択課題は若年化、助教の割合増加
- 本ファンドでこそ支援すべき「研究者個人の描くビジョン」を純粹に審査できる仕組みを段階的に構築

研究者の声

数百年単位の視野が必要な超長期的なテーマを申請できる研究費は他に無かった

現在の専門を超えた研究にどうしても挑戦したいが、他の研究費は業績が十分に無いと応募できない

学際性が高く、既存の学問領域に当てはまらないテーマであるため、申請できる研究費が無かった

くすのき・125の特徴 ②【資金】

研究に集中できる環境づくりをサポート

- 国内外の政策や学内外の若手研究者の支援状況を徹底調査
- 本学の研究者に今本当に必要な支援を具現化
 - 自由度の高い経費を、独法化前の個人研究費の水準で一括配分
 - 基金の柔軟性を活かし、支援期間内であれば年度をまたいで繰り越しでき、通常の補助金では支出できない様々な用途にも柔軟に利用可能
- 予測不能な研究にも使える

使い勝手の良い研究費で助かった！

実際に寄せられた資金の活用方法

- 研究費、調査費、備品購入費、設備整備代（老朽化した施設の修理）
- 学会や研究会への参加費、旅費
- 書籍出版費
- セミナー等の開催費用、講演者の招聘費用
- 研究員、技術補佐員、研究支援員、RA、秘書等の人件費
- 他機関に実験/勉強しに行っている期間、講義を代わってもらう非常勤講師の人件費
- 自身のライフイベント時の支援者の人件費 など

くすのき・125の特徴 ③【成果】

採択し支援する研究（者）を社会に発信

- 採択後の過度な義務は課さない
- 研究者は研鑽して学問に迫るという”責任”を負うとともに、寄附者の思いを真摯に受け取ってもらう
- 研究・研究者のビジョンや想いを、社会に発信。さらなる寄附金の獲得に活用

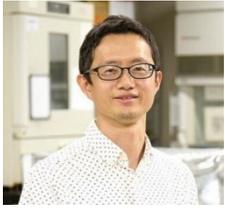
極めて挑戦性の高いテーマであるため、確実な成果を短期的に求める他の研究費には応募できなかった



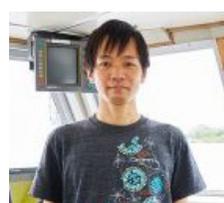
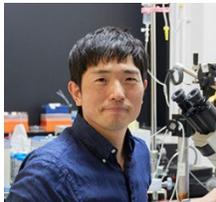
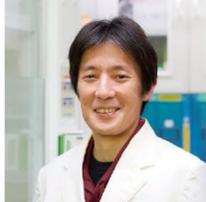
インタビュー記事



想いを語った動画



3年間で
39名採択



さいごに・・・なんで”くすのき”？

- 京都大学のシンボル
- ゆっくりと長い時間をかけて着実に大木へと生長
- ゆっくりであっても堅実に成長し、大成する学問は「楠学問」と呼ばれている



125年後、さらにそのずっと先まで、
本学がそのような研究・学問を育てる土壌となるように！



ご清聴ありがとうございました

京都大学 総合研究推進本部 くすのき・125事務局 kusunoki125@kura.kyoto-u.ac.jp

代表担当者 鮎川 ayukawa.kei.6w@kyoto-u.ac.jp